

生活支える公共交通をもっと便利に! もっと身近に!

前橋市の取り組み

☎ 交通政策課 ☎027-898-5939

本市の交通事故の特徴は、土日曜よりも平日の発生件数が多く、朝夕の通勤通学時間帯に多発していること。通勤と通学の交通手段として、車の利用割合が高いことから、事故が多発していると考えられます。

また、今社会的に大きな問題になっているのが高齢者による事故。今後さらに高齢化が進むことを踏まえ、高齢者の事故防止対策が喫緊の課題です。この対策として、世の中では運転免許を自主返納する動きが広がっています。しかし、本市は車社会。私たちの生活で車は大事な移動手段の一つです。そのため、自分の運転に不安を抱えつつも、家庭の事情で運転せざるを得ない人もいます。送迎に頼るにも、送迎者の負担が増加。この課題は単に自主返納を促すだけで解決できるものではないのです。

これらの状況を打開するためには、車に代わって生活を支える移動手段、公共交通の利便性向上が必要不可欠です。そこで本市では、どんな世代にとっても使いやすい公共交通を目指して、さまざまな取り組みを組んできました。

AIを活用した地域内交通での実証実験

NTTドコモと連携し、AI(人工知能)を活用した実証実験を実施。大胡・宮城・粕川地区のふるさとバスや富士見地区のるんるんバスで、AI配車システムを活用しています。この実験では、AIが最適な配車ルートや時刻を計算。待ち時間の短縮や配車の効率化を目指しています。

地域の人々が主体となって、移動手段確保について協議を重ねてきた城南地区でもこのAI配車シ

ステムを利用して、地域内交通の実証実験を行いました。乗り合いタクシーの予約を電話で受け付け、乗降場所からAIが最適な配車ルート进行分析することで効率的な運行を試みたこの実験。期間中に778人が利用し、3割の利用者がこの実験により外出頻度が増えたという結果になりました。来年度の本格運行を目指して地域と本市で協議を重ねています。



自動運転



上毛電鉄中央前橋駅からJR前橋駅を結ぶシャトルバスで実施した、自動運転の実証実験。営業路線で一般客を乗車させるバスでの実験は、全国初の試みとして注目されました。利用者へのアンケートでは、乗車前の不安が乗車後に解消されたという結果に。バスで自動運転化が進めば、課題となっている運転手不足の解消が期待できます。今後、新しい路線での実験を予定しています。

マイタク



マイタクは、免許の自主返納者や障害者、妊婦など、移動が困難な人の移動手段確保のために実施しています。市内のタクシーを利用する時に、運賃の一部を助成。自家用車に頼らない外出を支援しています。また、昨年からは紙の利用券だけでなく、あらかじめマイタク登録を済ませたマイナンバーカードを提示することでも利用できるようになりました。